

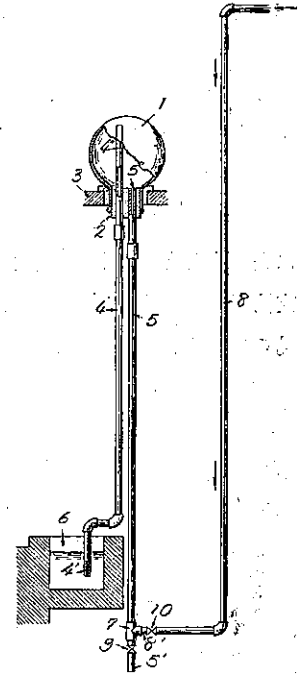
特許抄録

第二十卷第二號 昭和九年二月

検水装置

(特許第 103356 號 特許権者(發明者)
ヘンリー・クリストファー・クレーン氏)

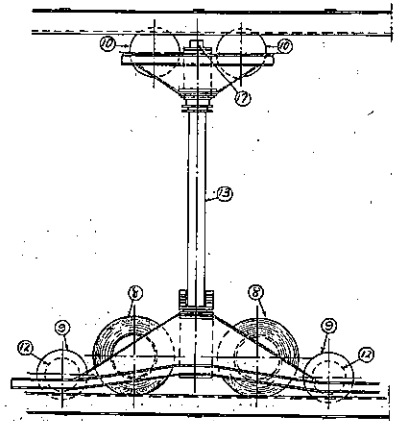
この發明は所定の場所に取り付けた密閉せる硝子その他の透明水篋(1)内より外部に長短2本の水管(4),(5)を垂下し、その長管の下端の弁の上位に他の高圧水管の下端を弁を介して連絡し、又短管の下端は淨水道に没せしめ仍て前記2個の弁の開閉を操縦する事により淨水道を流れつゝある淨水の一部をサイホンの理により透明水篋(1)内に連続的に流出せしめてこれを検水する装置である。



高速軌道用鐵道自働車輛

(特許第 103721 號 特許権者(發明者)
エルンスト・カール・ロッシェ氏)

この發明は車輛の下部及び上部を走る各1本の軌條の間を導かれる高速軌道用鐵道自働車輛に於て軌條と齧合し、或はこれに依りて誘導せらるゝ輪縁を有する運轉車輪(8)及び支持車輪(10)が夫々下端及び上端に存在し、柱狀に車體を貫通せる車輪臺枠に車體自身が彈力的に懸吊せしめられたものである。



瀝青乳劑製造法

(特許第 103749 號 特許権者(發明者) 重宗亮一氏)

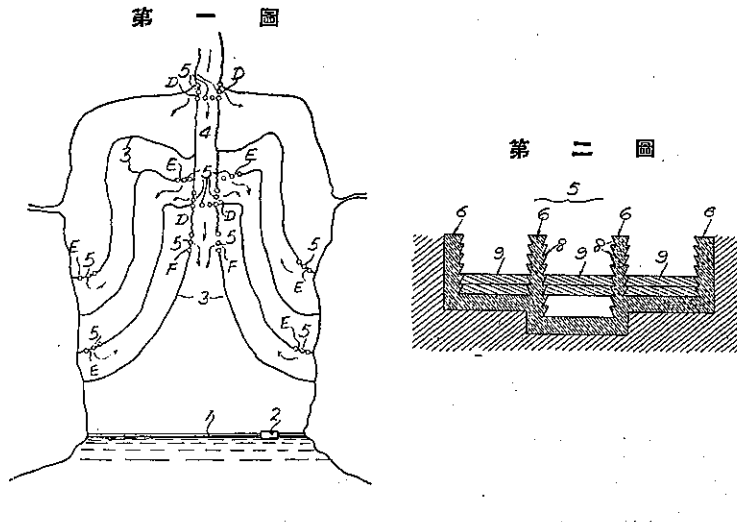
この發明はアスファルトその他の瀝青乳劑の製造に於て瀝青質物を水中に分散せしむるに要する所謂乳化劑液として、ムクロンと稱する植物の果皮を苛性曹達、炭酸加里の如きアルカリ溶液中に煮沸して製造せる煎汁液を乳化劑とするものである。

低地改良装置

(特許第 103771 号 特許権者(發明者) 山本伊三郎氏)

この發明は干潟地又は河川の沿岸に於ける低地に於て要排水と壤土及び肥料分と砂礫とを自然に分離して適物を適所に沈澱せしめて低地改良を行はんとするものであつて圖面に付きその實施例を示せば次の如くである。

河口に接する干潟地に於て(第一圖参照)、數個の同一水準線に沿ひて夫々數段の紆壁(3)を設けこれに河水の一部又は全部を導入すべく爲し、各紆壁の要水取入口(D)と要排水調節口(E)と排水流出口(F)と水路(4)とに夫々壤土及び肥料分を沈澱し砂礫を區分し又は要排水等を適宜調節せしむるやう横溝(8)と縦溝とを設けたる支柱(6)を樹立し(第二圖参照)挿戸(9)を上記の縦横の溝に挿抜し得る様に爲したる調節装置(5)を設けたるものである。



軌條の波狀磨耗發生の豫防方法

(特許第 103783 号 特許権者(發明者) 前橋俊一氏)

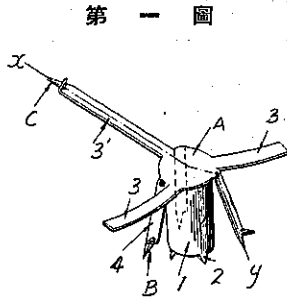
この發明は、實施軌道の一部又はこれに類似の模型軌道上に、實際使用すべき車輛又はこれに類似の模型車輛を運轉し、その働輪又は制動輪に現はるゝ上下振動の周期を測定し或はその上下振動を軌條面に印せしめて、其處に起るべき磨耗の波長を觀察し、若しその軌道が有害なる波長の波狀磨耗を發生すべき設計なりと認められたる時は、適當にその設計を變更し以て、實施軌道に於ける波狀磨耗の發生を未然に防がんとする方法である。

鐵筋コンクリート用埋込子

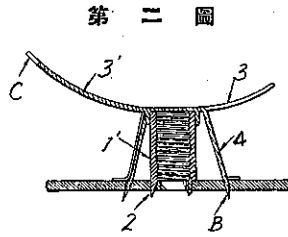
(特許第 103850 号 特許権者(發明者) 沖津 清氏)

この埋込子は、圖面に見る如く内側に螺旋を刻設し下端に打込爪(2)を設けたる短筒(1)の上部に前記の打込

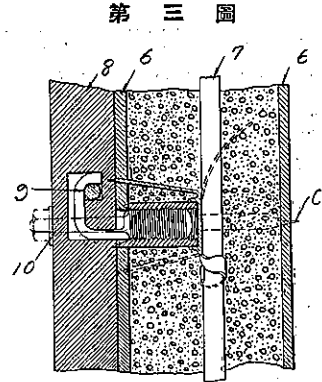
爪と共に假桝に打込むべく下方に屈曲せられ爪 (B) を有する支持脚 (4) と、鐵筋の位置を決定し且つ鐵筋に纏卷すべき纏卷片 (3) と、他方の假桝の位置を決定すべき長さを具備し先端に爪 (C) を有する定規片 (3') とを設けたものであつて、鐵筋の位置と厚みとを正確に決定し建築物の内部天井又は外部の木材石材等の取付を容易ならしめ様とするものである。



第一圖



第二圖

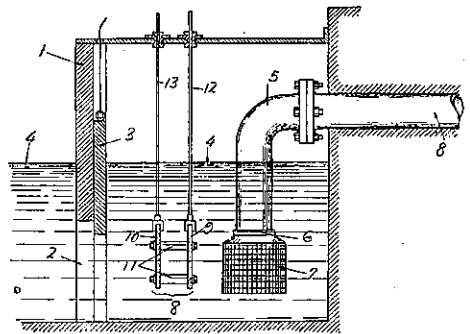


第三圖

通水管防蝕装置

(特許第 103877 號 發明者 中村健次郎氏, 森井幸藏氏)
特許權者 昭和肥料株式會社

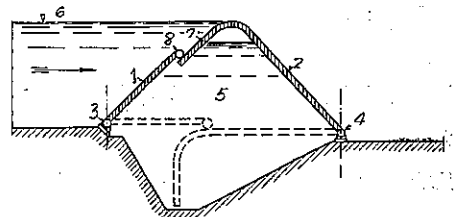
この發明は鹽分を含む用水特に海水を使用する機械裝置の鐵管等のバクテリアに依る腐蝕作用並に貝殻その他蟲類の棲殖附着に基く損害を經濟的に防止せんとするものであつて、その裝置としては圖面に見る如く通水管 (5) の入口又はこれに接近して鹽水電氣分解裝置 (8) を設けたものであつて電解に依つて生じた遊離鹽素をして殺菌作用を行はしめるのである。



二重扉附堰止裝置

(特許第 103886 號 特許權者 (發明者) アロイス・ヴィクター・ルツ氏)

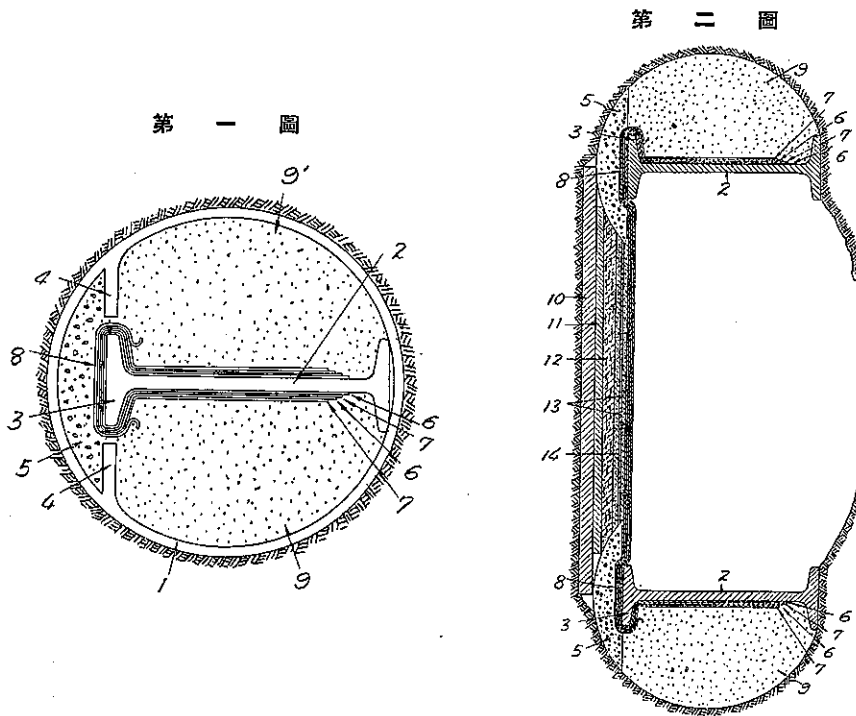
この發明は堰室内の水の流失するを防止せんとするものであつて、幅着せられたる下側の扉 (2) は上流水面に延長し、更に上流に向つて下方に延長し、幅着せられたる上側の扉 (1) の上端部分は上記下向延長部上に坐せる様にしたものである。



地 下 鐵 道 構 築 法

(特許第 103954 號 發 明 者 眞島悌次郎氏)
特許權者 大倉土木株式会社

この發明は、基礎杭打機にて鋼管を土中に壓入し、基礎杭を埋設する從來の基礎杭打法に於て、鋼管(1)中に防水層(6)(7)を被覆せしめたる I 鋼又は H 鋼(2)(第一圖参照)を挿入固定せしめ、間隙(5)にはコンクリートを、間隙(9)(9')には砂又は砂利を充填し、次に鋼管を引き抜き H 鋼を土留杭として土壌を開鑿し、土留作業を施し(第二圖参照)、防水層を剝離してこれを土留施工壁(10)(11)(12)(13)(14)上に重層せしめる方法である。



コンクリート、モルタル等よりなる建造物の破壊方法

(特許第 104015 號 特許權者(發明者) 門倉三能氏)

この發明はコンクリート、モルタル等よりなる建造物の表面に水を撒布浸潤せしめたる後直ちに 1500°C 以上の高熱を以て加熱し、これを反覆して上記建造物を破壊する方法であつて、爆發物等を用ふる等の危険なく特定の場所の破壊切斷を容易に行ひ得る特徴がある。これはモルタル部は空隙率比較的大であつて 1200°C 以上に加熱冷却したるものは特に著しく大なる空隙率を有し、加之裂罅をも生ずる傾向があり、而して母材たるセメントの融解點約 1500°C に近き温度に於て破砕性最も顯著なるの現象を利用したものである。

浮 堤

(特許第 104016 号 特許権者 (發明者) 渡邊丈二氏)

この發明は空洞密閉の函體を多數連結して浮堤とし、その外枠となるべき柱杭に豫め空洞 (ウ) を作り、その底部に根械 (f) を藏し置き、柱杭を海底に打込後更に打込棒を柱杭空洞内上方より該空洞内に挿入して打込棒の頭部を強打し以て内藏の根械を地中兩側に打込ましめ、この柱杭數本を鳥居型に浮堤の外枠となるべく結構し、これを數組併設し前記の浮堤と連鎖するものである。

